

提供年月日	平成30年3月27日
担当部課	教育委員会 教育総務課
担当者	中塚
連絡先	077-587-6014(直通)

## 中主小学校 並びに 野洲北中学校 経年建物(校舎・体育館)への対応方策等について

### ● 中主小学校 校舎等建物の沿革 公立学校施設台帳より

① 旧館校舎	昭和32年築 平成3年 平成10年 平成20年 平成24年	RC造3階建 大規模改修(全面) 耐震補強実施 大規模改修(トイレ改修) 大規模改修(空調整備)	延床面積 2157㎡	② 新館校舎	昭和60年築 平成10年 平成20年 平成24年	RC造4階建 EV増築 大規模改修(トイレ改修) 大規模改修(空調整備)	延床面積 3951㎡ 延床面積 71㎡
③ 体育館	昭和61年築	S造(一部RC造)2階建	延床面積 1245㎡	過去これまでに大規模な工事等履歴無し			

### ● 中主小学校 経年建物への対応並びに校舎増築について

①旧館校舎については、昭和32年築と既に60年以上経過しており、また、将来的な教室数の不足に対応するため、旧館校舎の改築も視野に入れ、平成29年度において、校舎の配置や工事施工手順等の基本計画策定、並びに旧館校舎の現状調査のため、旧館校舎の耐力度調査を実施しました。(※耐力度調査は、旧館校舎改築事業における国庫補助金の採択基準調査を兼ねています。)

耐力度調査の結果、旧館校舎は継続して使用可能であることが判明しました。  
また、当該調査結果について、校舎改築の国庫補助金採択基準に照らし合わせたところ、国庫補助金には該当せず、補助金を活用した校舎改築が出来ないことも併せて判明しました。(県教委確認済み)

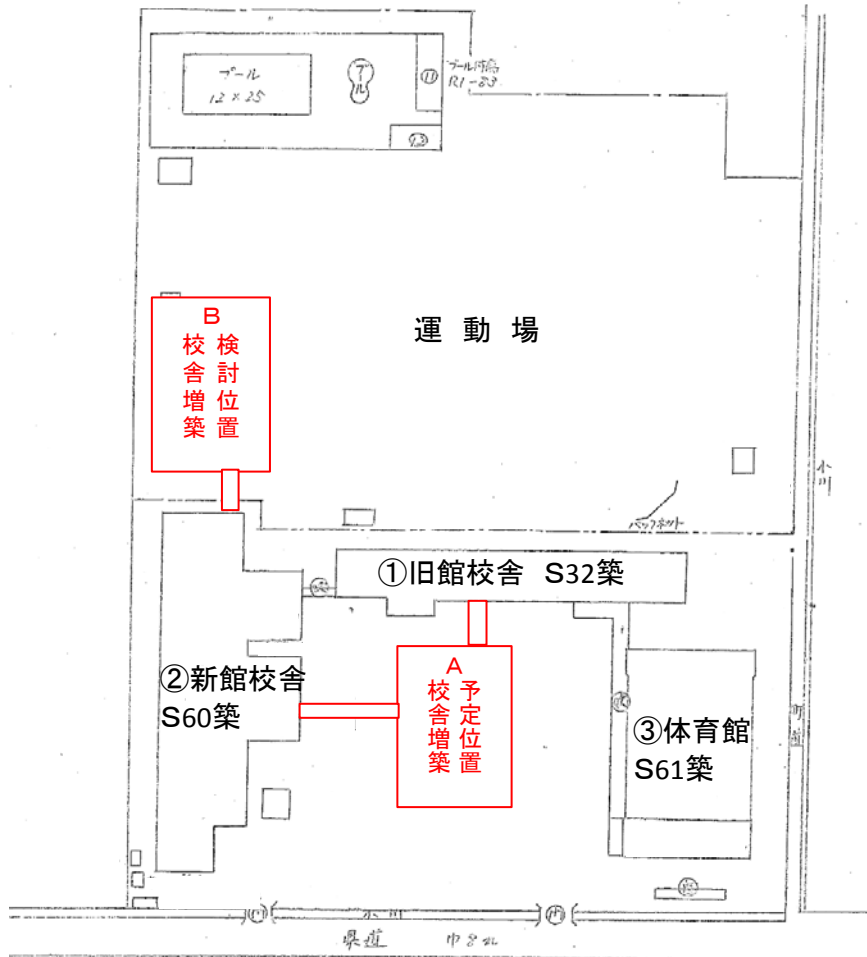
よって、旧館校舎については、長寿命化を含めた大規模改修を実施しようとするものです。  
併せて、②新館校舎並びに③体育館については、築後30年以上経過していることを踏まえ、同時期に大規模改修を実施するものです。(大規模改修については国庫補助金活用可能です。)

また、当初改築も視野に入れて校舎床面積を増やすことを想定していましたが、改築が不可能であることから、不足する教室数については、校舎増築で対応することになりました。  
(県教委との事前協議では、増築に係る国庫補助金の活用は可能であるとの見解を得ています。)

なお、増築校舎の位置については、敷地内既存建物の配置上、2箇所を検討しました。(左図A・B)  
A案については、旧館・新館ともに各階での渡廊下接続が可能であり、既存建物とのアクセスが良く、旧館校舎3階のバリアフリーについても改善されます。

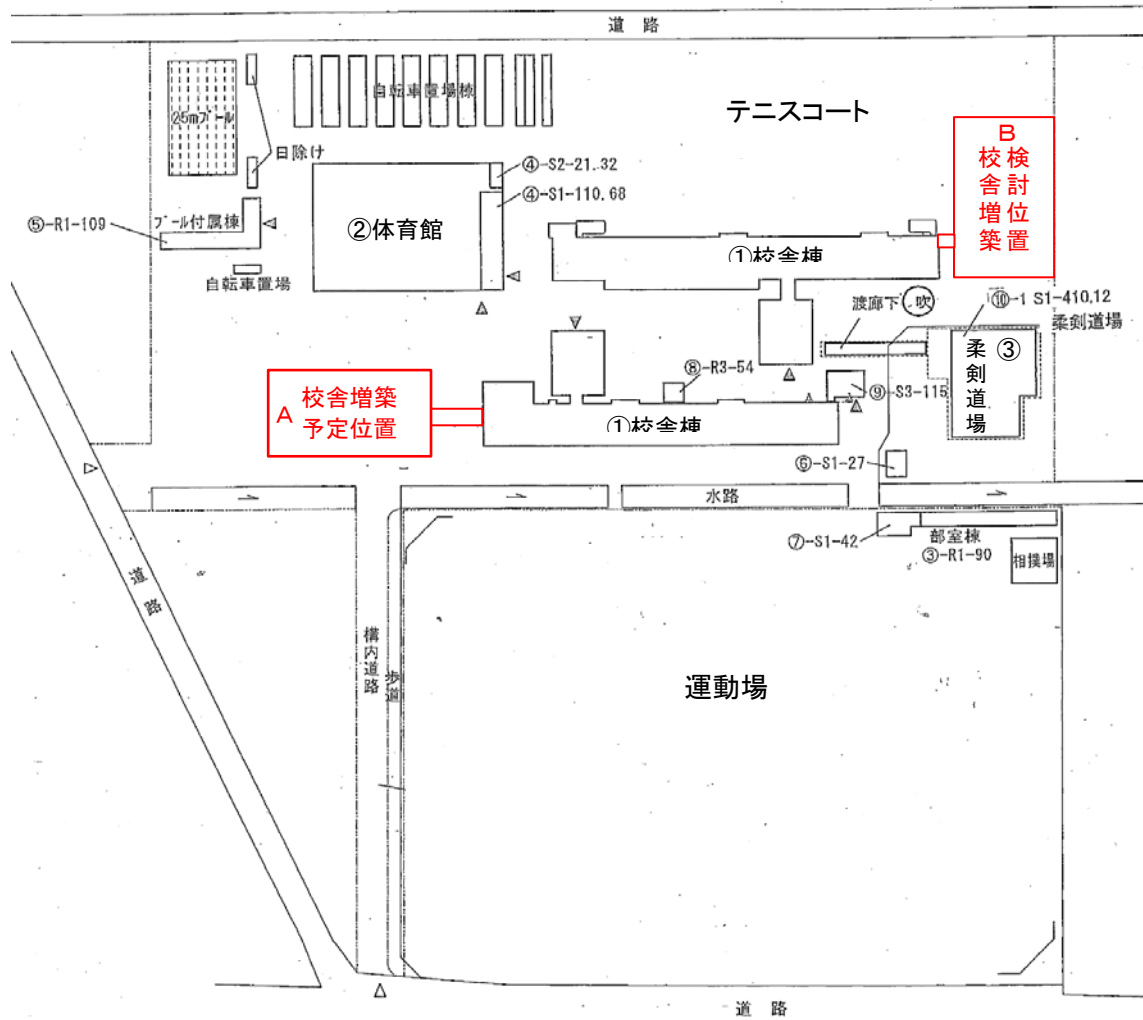
B案については、体育館から遠く児童の移動距離が長いこと、また、新館校舎と各階で渡廊下接続が出来ない(耐力壁で開口部が確保不可)ため、1階のみで渡廊下を接続し、バリアフリーのためのEV配置が増築校舎にも必要となります。

両案とも中主小学校教職員と協議をさせて頂きました結果、A案の位置で校舎増築をしようとするものであります。



● 野洲北中学校 校舎等建物の沿革 公立学校施設台帳より

① 校舎棟	昭和59年築	RC造4階建(4階塔屋)	延床面積	6351㎡	② 体育館	昭和59年築	S造2階建	延床面積	1341㎡
	平成14年	EV増築	延床面積	54㎡		過去これまでに大規模な工事等履歴無し			
	平成19年	配膳室増築	延床面積	115㎡					
	平成24年	大規模改修(空調整備)			③ 柔剣道場	平成26年築	S造平屋建	延床面積	410㎡



● 野洲北中学校 経年建物への対応並びに校舎増築について

昭和59年築の①校舎棟及び②体育館について、建築後30年以上経過しており、建物外装・内装・設備ともに経年劣化が相当進んでいることから、全面的に大規模改修を実施するものです。

また、野洲北中学校区においては、中学校開校後、これまで段階的に住宅開発が進んでおり、将来的に教室数の不足が見込まれることから、併せて校舎増築工事を実施するものです。

なお、増築校舎の位置については、敷地内既存建物の配置上、2箇所を検討しました。(左図A・B)

A案については、各階で渡廊下接続が可能であり、職員室からの距離が比較的近く、教職員の目が届きやすいこと、また、体育館と隣接することから、体育館との移動距離も短くなります。

B案については、建物構造的に渡廊下接続が容易であるものの、職員室から遠く教職員の目が届きにくいこと、また、体育館までの移動距離が長くなります。

両案ともに、野洲北中学校教職員と協議をさせていただきました結果、A案の位置で校舎を増築しようとするものです。